

大府市議会

無所属クラブ 議会レポート

2025 WINTER 冬

YOUR VOICE

あなたの声が、まちを動かす力になる。

党籍なし完全無所属

大府市議会議員 宮下しんご



市民ニーズに柔軟かつ機敏に応えられる大府市であり続けるために—

◆執行部提出議案の概要

11月29日～12月17日の日程で開会された12月定例会(令和6年第4回定例会)では、専決処分2件、条例議案5件、補正予算5件、その他議案3件、人事議案1件が執行部より提案され、採決の結果、いずれも全会一致または賛成多数で可決となりました。

◆一般会計補正予算(第8号)本会議質疑

①(給食)賄材料費 2574万9000円増額

Q 物価高騰が家計に重く圧しかかる状況が続く中、(給食費の)保護者負担を据え置く予算の意図は尊重するが、賄材料費の当初予算(5億1773万円)の約5%に及ぶ大幅な増額。持続的な財源調達の見通しの観点から、今回の判断に至った背景と現状をどう理解しているか?

A 給食費の公費負担について、金額としては大きなものだが、物価高騰の影響を受ける市民への支援を市独自で強化することを目的に、今回、市内の小・中学校に通う児童生徒の保護者への経済的な負担の軽減を図るもの。事業費も適切な予算編成のもと、提案している。

②債務負担行為の追加(来年度に学校で利用するバスの借上げ予算)

※債務負担行為:自治体の予算は単年度で完結するのが原則ですが、事業や事務が単年度内で完結せず、後年度にも支出しなければならない場合に、その負担額をあらかじめ決めておくことを「債務負担行為」と言います。

Q 事業者との契約が非常に困難となっていることへの対処として、その必要性は理解するが、「2024年問題」への懸念の声が大きく取り上げられるなど、働き手そのものの不足や人件費の高騰といった人材確保の諸問題は以前から顕在化していたところであり、債務負担行為の設定が今回、本補正予算のタイミングとなった背景と経緯について、詳細な説明をいただきたい。

A 昨年度と本年度、小学校水泳授業のバス借上げが入札不調となるなど、事業者が保有するバス台数やドライバーの不足等から、契約が非常に困難な状況。バス事業者からの聞き取り結果からも、半年以上前に入札を実施するのが望ましく、それ以内は予約が困難となることが予想されるため、早期に発注手続きに着手できるよう、今回、債務負担行為を設定するもの。

◆一般会計補正予算(第8号)

討論

給食費の段階的無償化が「おおぶこども輝く未来応援八策」に掲げられていることもあり、政策的な方向性も含め、食材費高騰分を当座、公費負担でカバーせざるを得ない事情は理解するが、厳しい財政状況により本市とは異なる判断をしている市町も多いことは念頭に置くべき。そのうえで、給食の段階的無償化については、持続的な財源の見通しを常に持ちながら、経常経費への恒久的な影響も想定し、スケジュールありきではない丁寧な検討と慎重な政策判断が必要。

流動性の高い社会経済情勢により、通常の予算スケジュールで対応できない場合の債務負担行為についても、市民ニーズに柔軟かつスピード感をもって応えられる本市であり続けるため、その手段として適切に生かしていくべく、当会派としても改めて議論を深めていきたい。

NOTICE

無所属クラブ

宮下しんご × いいお祐介

タウンミーティング

(※事前申込は不要です)

2/8(土) 14:00～

おおぶ文化交流の杜 会議室1・2

YOUR VOICE SPECIAL

一般質問の“その後”

特集

大府市役所でスマートスタイル 試行開始

もっと環境にやさしく、もっと働きやすい市役所へ—
令和6年3月定例会 一般質問での提言が実現しました。



©photoAC

◆「スマートスタイル」とは？

環境省は令和4年、「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動（愛称：デコ活）」を提唱しました。そのための「個別アクション第1弾」として示された様々な取組のひとつが「オフィス服装改革」であり、「若者を含めた全世代が働きやすい服装を選べるように」という考え方です。

愛知県内では「デコ活」賛同自治体として発足当初から名を連ねる一宮市が、「さわやかエコスタイル」という名称で「個別アクション」に先んじて取組を進めてきたほか、知多管内でも南知多町が令和4年度から通年実施を開始しています。



◆岩倉市での視察調査などを参考に一般質問で提言

無所属クラブでは、令和5年度から同様の取組を開始した岩倉市の事例について、令和6年1月30日に視察調査を実施し、導入に至るまでの経緯や現状、ルール等について、同市担当課からお話を伺うとともに、執務中の服装基準の参考例を含む貴重な資料をご提供いただきました。

同年3月定例会一般質問では、視察で得られた知見も生かし、「スマートスタイル」の導入について市の見解を質したところ、市長は、「気温や体調に合わせて服装を柔軟に選択することで、健康管理がしやすくなるとともに集中して業務に臨むことができ、本市が推進する『健康経営』に資するものと認識している」としたうえで、「導入

については、若手職員で構成する組織で検討する」との前向きな姿勢を示しました。

◆令和6年11月より「OBUウェルネススタイル」試行開始

その後、市役所内の若手職員により組織された検討会が、「OBUウェルネススタイル」と題した勤務中の服装に関する新たなルールを策定。現在、「大府市版スマートスタイル」の試行的な運用が実施されています。

職員の公務能率をより高め、ひいては市民サービスの向上にもつながるというメリットにとどまらず、SDGsや「サステナブル健康都市おおぶ」のさらなる推進など、その幅広い意義を多くの市民の皆さまにご理解いただければ幸いです。

